

2016年3月14日

## 札チャレラジオ通信 第10回

佐藤：三角山放送局をお聞きの皆さん、こんにちは。札チャレラジオ通信です。私は本日パーソナリティを担当しますNPO法人札幌チャレンジド佐藤美貴です。よろしくお願い致します。この札チャレラジオ通信は毎週月曜日の3時から30分間、自立を目指す障がいのある人がITでマザル、ハタラク、拓きあう社会を作りたいとの思いで活動している私たちNPO法人札幌チャレンジドの活動内容をお伝えする番組です。今日は就労グループリーダー、佐藤と、同じく就労グループの千葉で番組を進めていきます。千葉さん、よろしくお願い致します。

千葉：よろしくお願い致します。

佐藤：千葉さん、本日ラジオデビューですね。

千葉：はい、初めてでちょっと緊張しておりますけど。

佐藤：今日のゲストを紹介する前に千葉さんの紹介をお願いします。

千葉：私は以前、就労のサポート、そして札幌近郊の市民活動センターで働いていました。その当時からご縁がありまして、昨年4月から札幌チャレンジドの一員として就労グループの担当をさせていただいております。よろしくお願い致します。

佐藤：お願いします。千葉さん、今日のゲストですけど、私たちの就労グループの大切なパートナー企業の一社でありますよね。

千葉：そうです。私のほうからご紹介申し上げます。

佐藤：お願いします。

千葉：今日のゲストは、株式会社調和技研、主任研究員の小野良太さんです。小野さん、こんにちは。

小野：こんにちは。

千葉：よろしくお願いいたします。

小野：よろしくお願いいたします。

千葉：株式会社調和技研さんは全国各地域のお祭り、イベント、お出かけ情報をたくさん集めたサイト「びもーる」のイベントデータ入力の仕事を通じて業務提携を結んでいる私たちの大切なパートナー企業の一社さんでございます。今日、小野さんに来ていただきまして、聞きたいことが、お話しを伺いたいなと思っております。いくつか質問を用意しておりますので、小野さん、ざっくばらんに、よろしくお願いいたします。

小野：よろしくお願いいたします。

佐藤：小野さん、全然緊張してないですね。

千葉：そうですね。

小野：まあ、そうですね。

佐藤：私たちも頑張りたいと思います。

千葉：本当ですね。早速、お聞きしたいなということを聞いていきましょうか。株式会社調和技研さんは北海道発のベンチャービジネス、というふうにお聞きしています。ぜひ会社概要についてお話をお願いします。

小野：私は北海道大学の情報科学研究科という、要はITを研究するところ、研究室で学生だったのですけれど、そこの先生とあと学校の皆さん、研究室のメンバーがちょっと会社をやってみようということになりまして、それで会社を立ち上げた北大発のベンチャー企業という形になっていますね。やってみることとかも少しいいですか。あと、びもーるという今、千葉さんから紹介いただいたサービスのほかにもITを使ったいろいろなサービスの開発をやってみまして、主に観光に関することが多いですが。

千葉：観光ですね。

小野：そうですね。北海道の観光、北海道らしさというのを生かしてビジネス、みんなに北海道に来てほしいなということを考えてやっていますね。

千葉：その研究の中からというか、ベンチャービジネスを立ち上げられて、その地域ということをしごく大事にされて。

小野：そうですね。

千葉：やられてますね。ありがとうございます。びもーるですね。このサイトの特色というのがあると思うのです。あと作ったきっかけですか。そのあたりをちょっと伺いますか。

小野：そうですね、びもーるを作ったきっかけというのは、まず、私たち大学の人間なので、まず、研究をどうにかしてサービスに世の中に出していきたいという考えがありまして、その一つがびもーるっていうもので、

千葉：社会貢献の一つという。

小野：社会貢献というのもあるんですが、大学の研究っていうのはたぶん皆さんノーベル賞とかになったらあっ、こんな研究あったんだとわかると思うんですけど、それ以外の大多数の研究ってたぶんご存じないと思うんです、何か。

千葉：機会がなかなか。

小野：やっぱりまっとうな研究というか、だけじゃなくって、会社にしたりとかサービスにして皆さんにアピールしてく機会を作っていくと全然社会にリーチできていないなっていうのがありまして、その一つでびもーるっていうのはイベントをみんなに配信するっていうことで直接ユーザー、住人、札幌住人の皆さんにリーチできる一つのそういうサービスだということで、これをぜひやってアピールしていこうっていう、そういう思いもありました。

千葉：ああ、なるほどなるほど。

佐藤：使ってますか。

千葉：もちろんです。僕はびもーるさんは当然サイトもあるんですけど、スマホのアプリでもありますんで、僕も入れて使わせていただいているところなんです。皆さんも、ラジオをお聞きの皆さんもぜひびもーるでひらがなで検索をしてをいただければすぐ見つかりますね。

小野：そうですね。

佐藤：札幌以外もね。

千葉：はい。札幌以外にも今7地区になりますか、全国。

小野：そうですね。札幌、横浜、東京、名古屋、大阪、神戸、福岡ですね。

千葉：また去年ぐらいからね、2地区どんどんと増えて。

小野：そうですね。

千葉：素晴らしい発想とアイデアを。

佐藤：本当に面白い。

千葉：展開されている。

小野：ありがとうございます。

千葉：びもーるさんでございますもんね。私たち札幌チャレンジドと一緒に仕事をすることになった経緯、一緒に仕事をする決め手となった理由、なんかそういった動機があれば教えていただけたらうれしいなと。

小野：私の先生たちは結構北海道界隈のIT企業さんとながりが深く、その一社が札幌チャレンジドさんとお付き合いがあって、私たち、びもーるってすごくたくさんイベント情報が入っているのですが、その作業を誰かにお願いできないかっていうことを探していたときに、札幌チャレンジドさんっていうところがあってぜひ紹介してみしてほしいということでご紹介いただきましてそれで打ち合わせさせていただいて、じゃあちょっとお願いできますかということ。

千葉：そこでいい感触が得られたというふうに話してよろしいでしょうか。

小野：そうです。

千葉：そうですか。

佐藤：なんか札幌チャレンジドって自ら営業をかけてくというよりは、そうやって横のつながりで仕事をいただくケースが本当に多いんですよね。なので今回も本当に横のつながりでこうやって調和技研さんと出会えて本当うれしい限りです。

小野：ありがとうございます。こちらこそ。

佐藤：こんななんかうれしいことについてとはなんですけど、ちゃんと聞きたいことが。

千葉：そうですね。せっかくゲストに来ていただいてというか、また変ですけども、どうでしょう、調和技研さんから見た札幌チャレの仕事の評価などどうですかね。

小野：不安はもちろんあったんですよね。札幌チャレンジドさんということで、障がいのある方に作業をお願いするっていうことに対する不安ってのはもちろんあったんですが、実際お願いしてみたら全然、むしろ学生とかに頼むよりも非常にクオリティ高く作業も効率もよくやっていただいて、こちらの無理難題もたまにあってはいるんですが全然文句も、文句といったらあれですが、やっていただけて本当に感謝の限りですね。

千葉：ありがとうございます。こちら現場官であるとか、また小野さん始め調和技研様から現場の感覚としてはどうですかなんてことをね打ち合わせをさせていただきながらってところが本当に私どもにやりがいを感じて、メンバーもみんな頑張っているという状況でありますね。

佐藤：その不安のところとあってね、結構同業の方とか実際に障がいをお持ちの家族の方とかも聞いているので、どういったところが不安でどれぐらいで払しょくされたのかとかも聞いてちゃってもいいですか。

小野：そうですね。イベント情報の、いろんなサイトからイベント集めているので結構臨機応変ではないんですけど、必ずしも決まったパターンがあるわけではないので。

佐藤：曖昧ってことですね。

小野：そうですね。そういった判断を迫る局面になったときに、障がい者の方だと混乱してしまったりとかそういうところがあるんじゃないかなっていうそういう不安はあったんですよね。ただ実際は、千葉さんがたが対応してくださってるっていうのもあるんでしょうけれど、おそらくは、そういうときあったときにですね。

千葉：メンバーが一生懸命これでいいのかってそういう判断との葛藤していい仕事を一つ一つ重ねていきたい。そんな思いがあるんだと思うんです。僕。

小野：そうですね。ただ、びもーるっていうのはお客さんはイベントを見てくれるユーザーの皆さんであって、その人たちにいい情報を伝えたいっていう思いで私たちはやって、それをすごくチャレンジの作業者の皆さんはすごく理解いただいて、いい情報にしたいという思いがすごく作業の節々から伝わってくるんで、それはすごくありがたいと思いますね。

千葉：そうですね。イベント情報を入力させていただいてそこで完結なのではなくって、入力したその画面の向こうに必ず一般のとても多くの方がいて、そのサービスや情報を待ち望んでいるっていう楽しみを待ち望んでいるっていうことを忘れないでやっていこう、ってこんな話をする事よくありますけども。

小野：そうですね。

佐藤：率直な意見が聞けてすごいいいですね。

千葉：本当ですね。

佐藤：本当に。じゃあこの辺でリクエスト曲。

千葉：そうですね。今日は小野さんにリクエスト曲をお願いしました。NHK あさが来たの主題歌ですね。AKB48の365日の紙飛行機です。

佐藤：札チャレラジオ通信、引き続き行っていきたくと思います。今日のゲストは調和技研主任研究員の小野さんです。引き続き質問のほうを進めていきたくと思います。

千葉：小野さん、引き続きまた後半もよろしくお願いします。

佐藤、小野：よろしくお願いします。

千葉：今の札チャレの仕事ということちょっと振り返ってみると、調和技研さんからいただいているお仕事ありまして、びもーるの情報発信となってますけれども、札チャレのメンバー、作業する一人一人、やっぱり苦手なジャンルですとか、どうしても生理的に受け付けないとか、特性として受け付けられない、いろんなことがあります。その中でご配慮いただいて仕

事を配分するというようなシステムですか、プログラムっていうこともずいぶんやっていたらいたっているような中で本当に感謝のところなのですけども、それでどうでしょう、クライアントさんの立場から見ると障がいを持っている人は継続して働いていくと。このことに対してどのような思いというものを持って関わっていただいているのかなっていうところをお聞かせ願いますか。

小野：私もそうですけど、障がいを持ってる方々とはいえ、すごく札幌チャレンジの皆さん見てると一生懸命働きたいって、社会貢献したいって思いを皆さん持ってる中で、障がいがあるからちょっとうまくできない部分があったりとかってそこがすごく葛藤されてる部分だなんていうふうに私も見てまして、それを私たちがこうやって仕事をお願いしたりだとか、あとは研究でこういう手助けをするっていうことを通して、障がいを持ってる皆さんがより社会に貢献できることをやってくっていうことは私たちにとってうれしいことですし、障がい者の皆さんもそれで社会貢献できてやりがいを見つけられるっていうことはきょううれしいことなのだろうなと思って、それはすごく強い動機を持ってやっているところでもあります。

千葉：ありがとうございます。私たち佐藤さんも私もそうですけど、こういうお話をクライアントさんから聞けるっていうのは、また今日、札チャレの事務所でもみんな今、勤務してまますけれども、メンバーも何人が聞いてると思うのです、業務の隙間を縫って。きょううれしいんじゃないかなって思いますよね。

佐藤：そうですね。これ、アーカイブでも残るので。

千葉：そうですね。

佐藤：はい。なんか時々、つらいときはこの小野さんの言葉を思い出して。

千葉：ありがたいお言葉いただきました。ありがとうございます。小野さん打ち合わせで、本当は私どものほうから伺わなければいけないところを、こちらに来ていただいてっていう打ち合わせも何回もありました。その中で直接メンバーとお話をするっていう機会もあったんですが、そのときでどんな印象を持たれました。

小野：すごく皆さん素直といいますか、まじめで本当にきっちり私の話をきちんと耳を傾けてもらって、あまり変なこととか言うと真に受けちゃうんだろうなっていう空気もありつつも、すごく真摯な方が多いなっていう印象ありましたね。

千葉：ありがとうございます。みんな札チャレのメンバー、まじめですもんね。

佐藤：そうですね。私語とか別に禁止じゃないんですけど、しーんとなってますよね。

千葉：集中してるがゆえにね。

佐藤：そう。一番うるさいの千葉さんじゃないですか。

千葉：私ですか。私か佐藤さんかというところですね。あとナカノさんっていうね、どうでしょう、この話はなかったことに、いや残りますからね。

佐藤：残りますけどね。

千葉：そうですね。そんな和気藹々の中でも、みんな集中力を持って仕事に向かっているという日々でありますね。

佐藤：うんうん。

千葉：そうですね。小野さん、北大初の、初めてではないですね。

小野：初めてではないですね。

千葉：北大から発信するという意味の北大発ですね。

小野：そうですね。

千葉：のベンチャービジネスとして、調和技研さんの今後の展開っていうのは、何かきっと面白いことたくさん考えられていると思うんですけど、どうですか。

小野：私、まだ全然我々の会社もそこまで大きくなっているわけではないんですが、そんな中であまり偉そうなこと言うのもちょっと僭越ではあるんですが、まだ北海道大学の情報系の分野でベンチャー企業でまともに成功してる会社ってそんなに数はないんですよ。我々が知ってるだけで1社あって、それ以外にはほとんどない状況でして、東京とかではたくさんあるので、そういう意味では北海道でもこういうベンチャー、新しいことをやって挑戦することで、どんどん世の中に出ていけるってことを一つの前例として私たち頑張ってるってやっていきたいっていうのが。それがすごい強い思いであるんですよね。なのでもちろ



ん、今後の展望というか希望というか夢みたいな感じになっちゃってますけども、そういう思いがあって、いろいろなんとしても成功してっていうことは一つありますね。具体的なサービスとかはホームページのほうに。

佐藤：そうですね。

小野：載ってますので。

佐藤：URL は。

千葉：URL あるですけど、ラジオをお聞きの皆さんは調和技研さんというのは、調和というのは調べるに和です。

佐藤：和ですって。

千葉：和ですは失礼しました。

佐藤：平和の和。

千葉：平和の和です。

小野：平和ね。

千葉：そうですね。調和ですね。技研は技に研究の研、

小野：そうですね。

千葉：ということですね。調和技研ということで調べていただければ。

小野：そうです。いつもこの名前がわかりにくいて、読み間違えられたりとか、なんだこれは、この調和技研ってどういう意味なんですかっていつも聞かれるんですね。

千葉：私も最初思いましたもんね。やはりホームページをご覧いただいたりとか。ラジオの前の皆さんは顔が見えないというか心だけ、声だけなんですけれど、小野さんは情報科学の博士でありまして、お若いんですけども非常に柔らかい雰囲気の方なんですけど、まさに調和というような雰囲気を持っていらっしゃる方で。

佐藤：うまい。

千葉：いえいえいえ。小野さん、どうでしょう、最後に札チャレに今後、そして今から今後望むこと、期待すること、こんなメッセージをいただければうれしいなと思うんですけど。

小野：本当によくしていただいて、これ以上望むっていうのは欲張り過ぎかとは思いますが、

佐藤：うれしいですね。

小野：そうです、一つ皆さん控え目とかまじめな方が多くて、おそらく我々に何か要望があったときにこんなことを言うのは申し訳ないとか、なんか小野さんに苦勞をかけてもみたいな、たぶんそういうところがあるんだろうという雰囲気を感じられまして、そういうところはぜひどんどんぶつけていってもらえると、私たちのほうでぜひ力になりたいっていう気持ちありますので、要望出していただいてそれに応えられるかっていうのは、我々のほうでもぜひどんどん業務をよくしていきたいなというようなのがありますので、そういうのをいっていただきたいっていうのが一つですかね。

千葉：やっぱり一つの業務だと運営、運用があって、作る側と現場の側とで意見をミックスして混ぜ合わせながら形作っていければうれしいなって私ども思うんですけども。今後ともよろしくお願いします。としか言えないような状況になっておりますけれども。

佐藤：でもなんかうれしいですね。そう言うと、これから挑戦する調和技研さんに私たちも関わってうれしいですよ。

小野：そうですね。なんかこう一つでも私どもが調和技研さんに貢献したいってこの思いが、

佐藤：そうですそうです。

千葉：どんな形でもつながっていけるというところっていうのが、やっぱりうれしさなのかなっていうふうに思います。

小野：ありがとうございます。

千葉：こちらこそありがとうございます。

小野：あとこのラジオでもこうやって宣伝ではないですけど、言わせていただいでもらって  
ますけれども、ぜひチャレンジの皆さんにもびもーるっていうのを広めていただけると  
うれしいなという、

千葉：そうですね。

小野：それが要望ですか。ぜひ周りの皆さんにもこういうのあるんだよっていうのを広めて、

千葉：そうですね。

小野：いただけると。

千葉：札チャレ通信に、

佐藤：そうですね。

千葉：載せたりだとか。

佐藤：そうですね。アプリのこととかね。

千葉：アプリのこともそうだしね。できますよ。

小野：きっと一つずつなんかこうね。

佐藤：フェイスブックとかにも載せてもいいですか。

小野：ぜひぜひ。お願いします。

千葉：そういうところも頑張っていきましょう。

佐藤：はい。これからもよろしくお願いします。

小野：こちらこそよろしくお願いします。

佐藤：今日はありがとうございました。

千葉：ありがとうございます。

佐藤：なんかあっという間に今日も終わってしまいましたけど。

千葉：そうですね。

佐藤：来週は加納理事長と岡野事務局長が登場します。北星学園の大学の生徒さんがゲストで参加する予定です。それでは、今日はありがとうございました。

千葉：ありがとうございました。

小野：ありがとうございました。

佐藤：来週もよろしくお願いします。さようなら。

千葉：さようなら。また来週。